

ドローン操縦士養成のROBOZ

屋内ショー事業に参入

機体販売、運用サービス提供

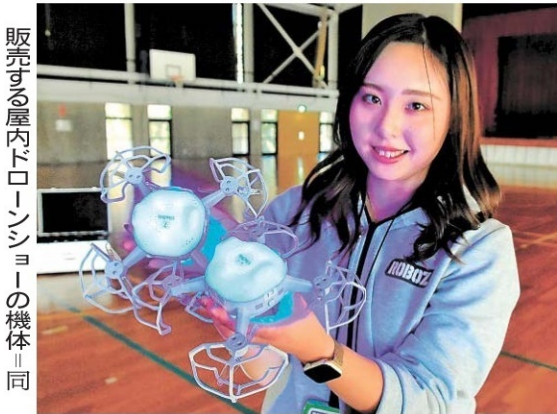
ドローンの操縦士養成スクールや体験イベントを手がけるROBOZ(恵那市)は、インドアドローンショー事業に参入する。ドローンショー・ジャパン(金沢市)と販売代理店契約を結

び、今月から機体の販売や運用サービスの提供を始めた。同業者やイベント会社をターゲットに初年度6千万円の売り上げを見込む。インドアドローンショーは、複数のドローンがプロ

グラムされた飛行パターンに従って飛び、音楽に合わせて光のショーが楽しめる屋内イベント。天候の影響や航空法の規制がなく、屋外に比べて低コストで導入できることから、コンサー



デモフライトでハートを描くドローン
＝美濃市曾代、市体育館



販売する屋内ドローンショーの機体＝同

トなどで活用されている。

扱う機体は、ドローンショー・ジャパンが日本の総代理店契約を結ぶ中国メーカーの小型ドローン。最大100機まで同時飛行できる。10機単位で販売し、価格はアンテナ、2日間の講習料を含めて約140万円から。オプションでプログラムミングも代行する。

ROBOZは6月から屋内ドローンショーを50回以上開催して、ノウハウを蓄積。今月から、導入を検討する企業を対象に美濃市曾代の体育館でデモフライトを始めた。石田宏樹社長は「インドアドローンショーの市場は海外では拡大しているが、日本ではまだ小さい。国内で市場をつくっていききたい」と話した。